

2007 年度

科目名 文化財学課題研究（保存科学の研究）	対象 研究科前文1回生 研究科後文1回生	担当者 内田 俊秀
授業テーマ 文化財の自然科学的研究と成果		
授業の概要と目標 文化財の研究手法には自然科学的方法があり、多くの成果を上げています。また、貴重な文化財を残そうとする動きも、世界各地で活発に行われており、それにも自然科学的方法は、威力を発揮しています。これらの理解を進める		
評価方法 レポート		
テキスト なし。その都度コピーを渡します。	著者	出版社
参考書 修復の理論	著者 C ブランディ 小佐野重利 監修	出版社 三元社
授業スケジュール・内容 <前期> 1) 保存科学の歴史 2) ヨーロッパの 19 世紀後半の活動 3) 出土木製品の展示と保存概論 4) 出土鉄製品の保存処理と概論 5) 銅鐸の保存処理と概論 6) 石造品の劣化について 7) 産業遺産の保存と活用 8) 遺跡の活用について 9) 国内の美術工芸品保存活用概論(1) 10) 国内の美術工芸品保存活用概論(2) 11) 文化財保存修復学会大会の研究発表事例について 12) 文化財科学会大会の研究発表事例について 13) 材料研究の動向 14) レポートの講評 15) まとめ <後期> 1) 夏休みの研究活動報告 2) 鉄製品の作り方 3) 銅製品の制作(1) 4) 銅製品の制作(2) 5) 銅製品の保存処理(1) 6) 銅製品の保存処理(2) 7) 出土木製品の構造 8) 出土木製品の保存処理と課題 9) 油彩画の保存と研究 10) フレスコ画の修復(1) 11) フレスコ画の修復(2) 12) 文化財防災(1) 13) 文化財防災(2) 14) レポートの講評 15) まとめ		